

富士重工業株式会社 2010 CSR

Site Report

国内関係会社

輸送機工業株式会社

所在地 〒475-8668
愛知県半田市上浜町102
従業員数 117人
主な事業内容 航空機部品の製造、販売



富士機械株式会社

所在地 〒371-0035
群馬県前橋市岩神町2-24-3
従業員数 356人
主な事業内容 自動車部品・産業機械・農業用
トランスミッションの製造、
販売



株式会社イチタン

所在地 〒373-0037
群馬県太田市新道町74
従業員数 202人
主な事業内容 自動車・産業機械用鍛造品の
製造・販売



桐生工業株式会社

所在地 〒376-0011
群馬県桐生市相生町2-704
従業員数 139人
主な事業内容 スバル特装車の製造・スバル用部
品の物流管理・スバルエンジン、
トランスミッションなどの再生



株式会社スバルロジスティクス

所在地 〒373-0814
群馬県太田市朝日町558-1
従業員数 159人
主な事業内容 自動車およびその部品の梱包、
出荷、陸送業、倉庫業、整備業、
保険代理店業



国内関連企業部会活動

スバルでは、国内関係会社のなかで、環境負荷の高い製造関係および輸送関係の5社により「国内関連企業部会」を組織しています。この部会は年2回定期的に開催して各社の活動事例の共有化や水平展開、当社からの情報提供を図り、効率的で合理的な環境保全活動を推進しています。

2009年度は、5月13日と10月28日に部会会議を開催し、2008年度の実績、2009年度の計画・進捗を報告・討議し、当社からは「改正省エネ法」の概要や、当社で行ったISO14001の統合認証などについて報告しました。

地域社会とのかかわり

各社とも、さまざまな社内外コミュニケーション、会社周辺の清掃活動などを定期的
に実施しています。ここでは2008年度に実施した活動の一部をご紹介します。
また、(株)イチタン、(株)桐生工業(株)、(株)スバルロジスティクスの3社は、スバル地域交
流会*1の活動にも参加しています。

*1 スバル地域交流会:富士重工業とのお取引先55社からなる組織で、太田市と周辺地域住民との相互交流ならびに地域
発展を図り、「住みよい街」づくりに貢献することを目的として、さまざまな地域貢献活動を行っています。
活動内容については下記ホームページからご覧いただけます。



<http://www.chiiki-kouryuukai.com/index.html>



スバル地域交流会Webサイト

地域社会とのコミュニケーション

各社とも、会社周辺を中心に清掃活動を定期的に行っています。下の写真は、桐生工業(株)の会社周辺および近隣通学路の
清掃の様子です。



輸送機工業(株)では、毎年「緑の募金」活動を実施しており、今年も10月に愛知県緑化推進委員会に集まった募金を寄贈し
ました。



左:愛知県緑化推進委員会
柴田事務局長
右:当社 竹井主査

Close Up

～(株)イチタンの環境マネジメントシステム活動～
社団法人日本鍛造協会より
「環境保全優良企業表彰」を受賞

(株)イチタンでは、ISO14001認証取得、環境法令順守、省
エネ、ゼロエミッションなど環境保全全般の実績が評価され、
11月に社団法人日本鍛造協会より「環境保全優良企業」と
して表彰されました。



左:(株)イチタン
田村社長(受賞当時)



環境保全の取り組み

環境マネジメントシステム

各社の環境マネジメントシステムの構築状況は下表のとおりです。

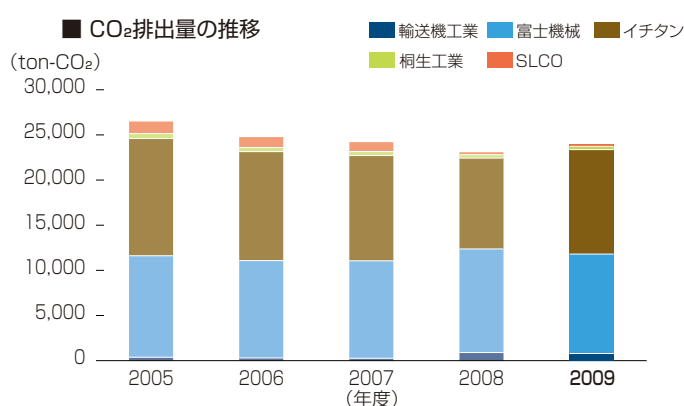
	初回認証 取得年月	2009年度 審査受審日	結果
富士機械(株)	2002年6月	2009年8月5~8日	軽微な不適合3件、よい点2件、改善推奨53件
(株)イチタン	2004年3月	2010年1月26~29日	不適合なし、よい点1件、改善推奨11件
桐生工業(株)	2004年10月	2009年8月19~20日	不適合なし、よい点2件、改善推奨21件
輸送機工業(株)	当社の統合認証の適用範囲に含んでいます		
(株)スバルロジスティクス	2004年2月に外部認証を取得しましたが、現在は自主的なEMS活動に切り替えています		

地球温暖化防止への取り組み

2009年度5社合計のCO₂排出量は24,024ton-CO₂となり、前年比約1,000ton-CO₂増加となりましたが、部会活動を開始した2001年度比では約1,500ton-CO₂、13%削減となっています。

今後もさらに、CO₂排出量削減・省エネルギー活動に取り組み、地球温暖化防止に貢献していきます。

なお、2009年度までのCO₂排出量の実績推移は右の図のとおりです。



Close Up

～(株)スバルロジスティクスのCO₂排出量削減～ モーダルシフト事業で「国土交通省海事局長表彰」受賞

(株)スバルロジスティクスでは、環境問題に配慮し、輸送量あたりのCO₂排出量を削減する取り組みとして、当社エコテクノロジーカンパニーと共同で、塵芥収集車『フジマイティー』の輸送において陸路での自走から海上輸送へのモーダルシフトを推進してきました。

その結果、陸路自走と比較しCO₂排出量は全体で約32%削減できました。こうした取り組みが評価され、11月に国土交通省 海事局長表彰を受賞しました。

右:(株)スバルロジスティクス岡崎社長(受賞当時)
左:当社エコテクノロジーカンパニー 荒井プレジデント(受賞当時)

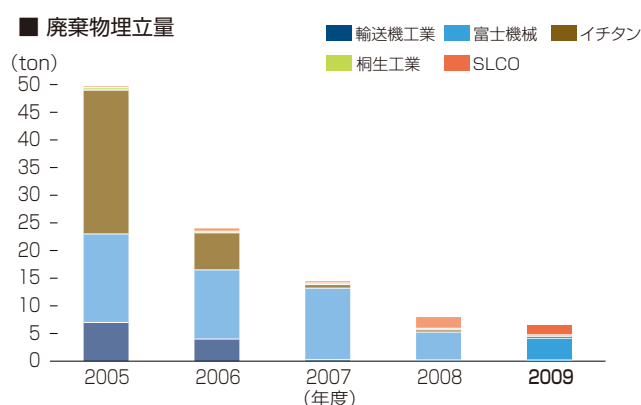


ゼロエミッションへの取り組み

2009年度は、5社合計で廃棄物発生量7,236トン、埋立量6.3トンとなり、2001年度の部会活動開始以来初めて、廃棄物発生量に対する埋立量の比率が0.1%未満となりました。

今後も、リサイクルの向上と廃棄物発生量・埋立量の削減に向け努力していきます。

なお、2009年度までの廃棄物埋立量の実績推移は右図のとおりです。



公害防止への取り組み

各社とも、地域社会との共生や緑豊かな自然環境を維持していくため、環境パトロール、排出ガスや排水の管理、環境リスク低減などに取り組み、環境事故や公害の発生を防止するための活動を推進しています。

■ 環境関連法規順守、行政指導など

2009年度、環境関連の法基準値の超過、環境事故・苦情、行政指導はいずれもありませんでした。引き続き「ゼロ」を目標に取り組んでいきます。

■ 環境関連測定結果

環境関連の測定結果は下表のとおりです。すべて法規制値を順守しています。

■ PCB含有機器などの保管状況

輸送機工業(株)、(株)イチタン、桐生工業(株)の3社で管理台帳とともに適正に保管しています。 桐生工業(株)の緊急時対応訓練の様子



■ PRTR対象化学物質取扱いについて

2009年度は、5社とも、対象化学物質の取扱量1トン未満で、届出に該当する会社はありませんでした。

2009年度の環境関連測定結果

■ 水質関係

輸送機工業(株):半田市公害防止協定

項目	規制値 (協定値)	自主 基準値	最大値	最小値	平均値
pH	5.8~8.6	6~8	8	7.3	7.6
BOD	25	20	3.7	1.1	2.1
SS	30	20	9	1	2.8
n-ヘキササン抽出物質(鉱物油)	2	2	1.2	0.5	0.7
全窒素	120	60	16	0.4	2.2
りん	16	8	1.4	0.01	0.3

富士機械(株)本社工場:下水道法

項目	規制値 (下水道法)	最大値	最小値	平均値
pH	5.7~8.7	7.7	7.3	7.5
BOD	300	1	1未満	1未満
SS	300	2未満	2未満	2未満
n-ヘキササン抽出物質(鉱物油)	5	1	1未満	1未満

富士機械(株)芳賀工場:下水道法

項目	規制値 (下水道法)	最大値	最小値	平均値
pH	5.7~8.7	6.9	6.5	6.7
BOD	300	1	1未満	1未満
SS	300	5	2未満	3
n-ヘキササン抽出物質(鉱物油)	5	1未満	1未満	1未満

富士機械(株)城南工場:水質汚濁防止法、県条例

項目	規制値 (県条例)	最大値	最小値	平均値
pH	5.8~8.6	6.9	6.7	6.8
BOD	20	2	1未満	1.2
SS	20	2未満	2未満	2未満
n-ヘキササン抽出物質(鉱物油)	3	1未満	1未満	1未満

(株)イチタン:水質汚濁防止法、県条例

項目	規制値 (県条例)	自主 基準値	最大値	最小値	平均値
pH	5.8~8.6	6~8.4	7.7	6.7	7.2
BOD	25	20	4.4	0	2.6
SS	50	40	16	0	2.7
n-ヘキササン抽出物質(鉱物油)	5	4	0	0	0.0
大腸菌群数	3,000	2,000	32	0	5.3

(株)スバルロジスティクス 太田納車整備センター:太田市公害防止条例

項目	規制値 (県条例)	自主 基準値	最大値	最小値	平均値
pH	5.8~8.6	6.1~8.3	7.7	7.2	7.4
BOD	10	8	3	0.8	2.1
SS	10	8	1.4	0.4	0.9
n-ヘキササン抽出物質(鉱物油)	3	2.4	1.3	0.1	0.4

【記号】…pH:水素イオン濃度、BOD:生物化学的酸素要求量、
SS:水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質

【単位】…大腸菌=個/ml、その他はpH除きmg/l、全りん:全窒素の規制値は日間平均値

■ 大気関係

輸送機工業(株)

設備	物質	規制値	自主基準値	最大値	平均値
暖房用ボイラー	ばいじん	0.1	0.1	0.006	0.003

富士機械(株) 芳賀工場

設備	物質	規制値	最大値	平均値
ボイラー	NOx	-	72	84
	SOx	0.28	0.01未満	
	ばいじん	-	0.003	0.003

(株)イチタン

設備	物質	規制値	自主基準値	最大値	平均値
ボイラー	NOx	8	4	0.13	0.08
	SOx	180	126	36	35
	ばいじん	0.25	0.15	0.006	0.004

【単位】SOx:m³N/h、NOx:ppm、ばいじん:g/m³N

■ 騒音振動関係

各社で測定を実施しており、2009年度の測定結果はすべて法基準値以内となっています。

富士重工業株式会社 2010 CSR

Site Report

海外関係会社

SIA

所在地 インディアナ州ラファイエット
従業員数 2,716名(2010年3月現在)
主な事業内容 米国におけるスバル車の製造、トヨタ車の受託生産



SOA

所在地 ニュージャージー州チェリーヒル
従業員数 746名(2010年3月現在)
主な事業内容 米国におけるスバル車および部品の販売、整備

SCI

所在地 オンタリオ州ミシサーガ
従業員数 126名(2010年3月現在)
主な事業内容 カナダにおけるスバル車および部品の販売、整備

SRD

所在地 ミシガン州アンナーバー
従業員数 26名(2010年3月現在)
主な事業内容 北米市場におけるスバル車の研究開発

RMI

所在地 ウィスコンシン州ハドソン
従業員数 22名(2010年3月現在)
主な事業内容 米国における汎用・四輪バギー・ゴルフカート用エンジンの製造、販売

主な委員会活動実績

スバルでは、海外の関係会社のなかで特に環境負荷が高い北米の製造関係および販売関係の5社により、「北米環境委員会(NAEC)」を組織しています。この委員会は、年2回定期的に開催し、企業間の活動事例の共有、水平展開を図り、効率的で合理的な環境活動を推進しています。また、2009年に発足した「北米CSR委員会(NACC)」も同時開催し、スバルのグローバルなCSR活動の情報共有および活動推進を図っています。

2009年は2月19日と11月5日に北米環境委員会および北米CSR委員会を開催しました。この委員会には日本からもCSR・環境委員長、事務局が参加し、北米環境委員会各社の活動報告とともに日本の環境委員会の活動報告も行い、グローバルな情報の共有化を進めています。



2009年のNAEC/NACCの様子
テレビ会議にて開催

Close Up

The Indiana Environmental Stewardship Program 加入

SIAは積極的な環境活動への参加が評価され、The Indiana Department of Environmental ManagementよりThe Indiana Environmental Stewardship Programへの正式な加入が認められました。このプログラムへの加入は州のなかでも非常にまれで、SIAはこの名誉あるプログラムに認められた数少ない企業といえます。



The Indiana Department of Environmental Management
理事のThomas Easterly氏

地域社会とのかかわり

社会貢献

スバルでは地域とのかかわりを大切に、信頼関係を築くことで社会貢献活動を受け入れ、評価していただけると信じています。地域との信頼関係をより強固なものにするための取り組みを、従業員や地域を巻き込んで展開していきたいと考えています。

■ チャリティ活動

SIAでは、日本でも関心が高まっている乳がんおよび生活習慣病の糖尿病に対して、乳がん撲滅チャリティウォークと糖尿病撲滅チャリティウォークを実施しました。

SOAではアメリカ国内の乳がん、ダウン症、糖尿病、がんなど、さまざまな問題に意識を向け、資金を募るWalks, runs, bowl-a-thonsというイベントを実施しました。

SCIでは、乳がん撲滅の募金を募るイベントである“Golf Fore the Cure”のスポンサーになりました。



SUBARU Share the Love Gardenでの収穫

■ フードバンクに食糧を寄贈

SOAでは、2009年度の新たな取り組みとして、地域貢献活動と環境活動の支援を同時に進めるため、従業員が地元の農業団体やフードバンクとともに、都市型農業地“The SUBARU Share the Love Garden”を開設しました。ここで従業員が育て、収穫した食物はフードバンクに寄贈し、飢餓撲滅活動に一役買っています。2009年度は約270kgの食物をSouth Jerseyのフードバンクに寄贈しました。

■ 近隣地域の清掃活動と植樹活動

2009年10月、SCI関連会社のSOMIでは地元の他社ディーラーと協力し、Mississauga Litternot Programという清掃キャンペーンを実施しました。このキャンペーンは従業員がディーラー周囲2kmの道路清掃活動を行います。このキャンペーンは年に3回、2年連続で計6回開催されます。

RMIもまた、Earth Dayに会社近隣地域の清掃に取り組みました。

地域との共存を目指して、自分たちにできることから一歩ずつ取り組みを進めています。



Mississauga Litternot Programへの参加の様子

Close Up

SIAがCSR賞受賞

SIAは、数々の社会貢献活動がラファイエット地域において将来につながる活動であるということが認められ、2009年10月にGreater Lafayette Commerceから、初の受賞者として“Corporate Social Responsibility Award”を受賞しました。



Close Up

SRDが地域で日本文化を紹介「もちつき大会」を開催

2010年1月、SRDでは地元住民を招いてもちつき大会を開催しました。SRDの従業員がもちを準備し、つきたてのもちが振舞われました。遠方からの参加者もあり、600名以上が参加したこのイベントは地元のwebサイトでも取り上げられるほど盛り上がりました。そのほか、書き初めや折り紙、紙芝居など日本の伝統文化を地元住民に広めるよい機会となりました。



SRDのもちつき大会が掲載された地元のwebサイト

交通安全フェア

スバルでは、交通安全活動に積極的に取り組んでいます。なかでも若年ドライバーに対して、自身の行動に責任を持って交通事故を起こさない運転をするよう指導しています。交通事故の撲滅することが我々の使命だと考えています。北米5社はおの交通安全教育や指導を行っていますが、今回はSIAとSOAをご紹介します。

SIAでは2009年5月に、運転経験の浅い若年ドライバーを対象とした、SIA交通安全フェアを開催しました。フェアでは交通安全指導をはじめ、自動車のメンテナンス方法、チャイルドシートの取り付け方法を学びました。さらに、シートベルト効果確認の装置、飲酒運転体験ゴーグルを着用しての運転などで実際に体験することによって、シートベルト着用の重要性や飲酒運転の恐ろしさを体感しました。

SOAでは例年、ニュージャージー州安全委員会主催Alive at 25プログラムの支援を行っています。このプログラムは16～24歳の若年ドライバーの違反や交通事故を減らすために交通指導、ワークショップが実施されています。さらに、Bryn Mawr Rehab病院で交通安全指導を実施しています。飲酒運転などが原因で交通事故に遭った人と若者が、交流・対話をし、交通事故の恐ろしさを実感する貴重な機会を設けています。



シートベルト効果の確認中(SIA)



飲酒運転体験ゴーグルをかけての運転(SIA)



Alive at 25プログラムのイベントで使用されたフォレスター(SOA)

環境保全の取り組み

環境マネジメントシステム

北米環境委員会の5社はすべてISO 14001環境マネジメントシステムの認証を取得し、教育、訓練、特定施設の法令順守活動、内部監査など、汚染の未然防止と環境負荷の低減に向けた取り組みを進めています。

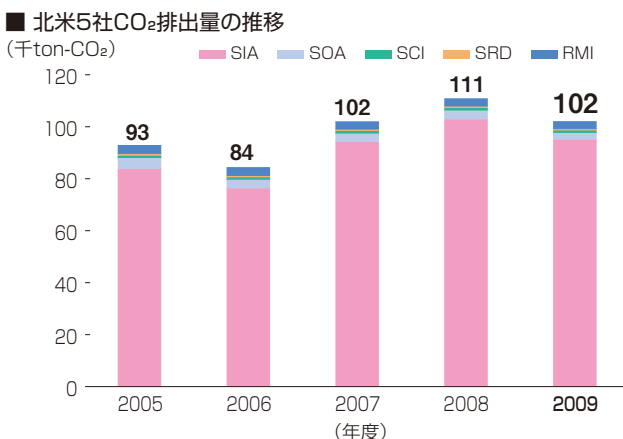
特にSIAでは1998年11月に認証取得しており、これは日本国内のスバル生産拠点である群馬製作所よりも4ヶ月早い取得でした。

また、2006年12月にはSIA・SOA・RMIの3社でさらに進んだ取り組みとして統合認証を取得しています。

地球温暖化防止への取り組み

深刻な問題である地球温暖化防止のため、各社さまざまな対策を推し進めてCO₂総量の削減に努めています。

2009年度の北米5社のCO₂総排出量は101,926ton-CO₂で、2008年度の110,724ton-CO₂に比べ約8%削減しました。なかでもSIAではこまめな省エネ活動により生産台数は増加しましたが、CO₂の排出量は2008年度に比べ約8%削減しました。一台あたり原単位は2008年度の0.54ton-CO₂/台から2009年度は0.49ton-CO₂/台へと低減しました。過去5年間の推移は下記グラフをご参照ください。地球温暖化防止のため、さまざまな対策を推進し、総量の削減に努めていきます。



Close Up

4年連続 Waste Wise賞受賞

米国環境保護庁(EPA)からWaste Wise賞を2006年度から4年連続で受賞しました。2009年度は地域活動参加部門でのゴールド賞受賞でした。(2008年度は気候変化部門ゴールド賞、2007年度はリサイクル部門、2006年度は新人賞)



■ カーシェアリングの推奨

国土の広い北米では一堂に会す会議への参加にも飛行機を使うことがあります。SCIは2009年6月にケベック州で開催されたCanadian National Dealer Meetingへの参加は飛行機の代替手段として社有車でカーシェアリングを推奨しました。47名の参加者中、各エリアから33名がカーシェアリングをして現地へ赴きました。



カーシェアリングで会議に参加した参加者

■ STARSプログラム

SIAが実施しているSTARSプログラムは地元の学校、クラス、クラブの子どもたちをSIAに招きCO₂削減をはじめとする環境保護教育を実施し、それを子どもたちが家で実践し、学校対抗で競争するプログラムです。すでに5,000名以上の生徒が参加しました。SIAはこのプログラムの資金提供をし、審査員も務めます。『教育』から『実践』へと、未来を担う子どもたちに環境保護活動に楽しく取り組む機会を与えています。



STARSプログラム参加者(SIA)

■ アースディ

北米各社は従業員の環境への意識を高め、エネルギー資源を保護するため、アースディ・アースアワーに参加しています。なかでもSCIでは独自にアース・ウィークエンドを設け、金曜日の仕事が終わった後、コンピュータの電源や仕事場の電気をオフにし、省エネ活動に従事しました。関連会社であるSOMIではアースウィークエンドに週末の夜間の照明を止めました。



アースディ
ディーラーの照明オン
(SOMI)

アースディ
ディーラーの照明オフ
(SOMI)

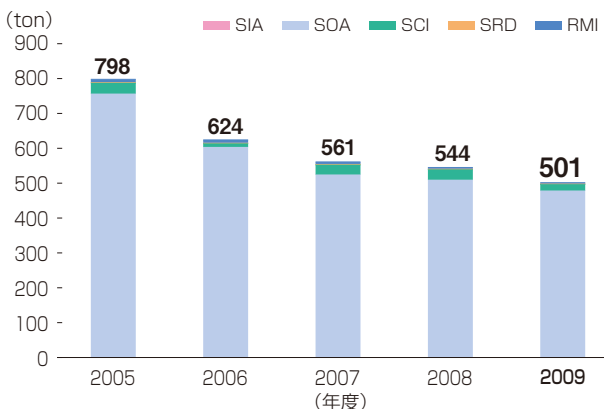
廃棄物削減への取り組み

2009年度の北米5社の総廃棄物埋立量は501.4トンとなり、2008年度544トンに比べ約8%削減しました。なお、自動車を生産しているSIAは2005年にゼロエミッションを達成し、現在も継続しています。過去5年間の推移は下記グラフをご参照下さい。各社は輸送時の梱包材のリターナブル化を進め、廃棄物そのものを減らす取り組みも行っています。

SCIではSOA・FHIと協力して再利用可能な部品用コンテナの検討を始めています。

SOAではさらに、自動車の売上増加によって廃棄物の発生量はわずかながら増加しましたが、工場内でのリサイクルが進み、2009年は埋立廃棄物を479トンまで減らすことができました。配送段階において折りたたみ式のリターナブルパレットを使用しています。この改善により、年間でダンボール40,000箱の削減になります。

■ 廃棄物埋立量



Close Up

地元大学で「スバルアイデンティティ／日系企業の実践」を講演

地域貢献の一環で、ミシガン大学において、SRD総務課長である矢野氏による講演が行われました。環境関連での企業促進を目的とした学生組織、Michigan Green Entrepreneur Groupに向けて「スバルアイデンティティ／日系企業の実践」というタイトルで、スバルの最近の環境/CSR活動や日本人の就業感、日本が優れているモノづくりの創意工夫について講演し、好評を博しました。



講演するSRD総務課長 矢野氏